

眼球運動検査-複像検査

準備物 複像検査器・赤ガラス・検眼鏡・記録用紙・赤鉛筆

目的 9方向眼位の位置を図式的に記録することによる眼位や麻痺の型の把握

暗室の方が判り易いが、日常視から遠くなるので、状況に応じて。

被検者を 50cm の位置に座位させ、被検者の眼の高さに盤面の中央がくるように台・椅子の高さを調節して、顎台・額当に固定する

通常、麻痺眼と思われる方に赤色ガラスを装用し、中央の縦棒を点灯させ、固視するように指示し見え方を聞く
 ・縦棒は1つか？2つか？
 ・縦棒は何色か？

1つで赤白混合色
 又は
 2つで赤色と白色

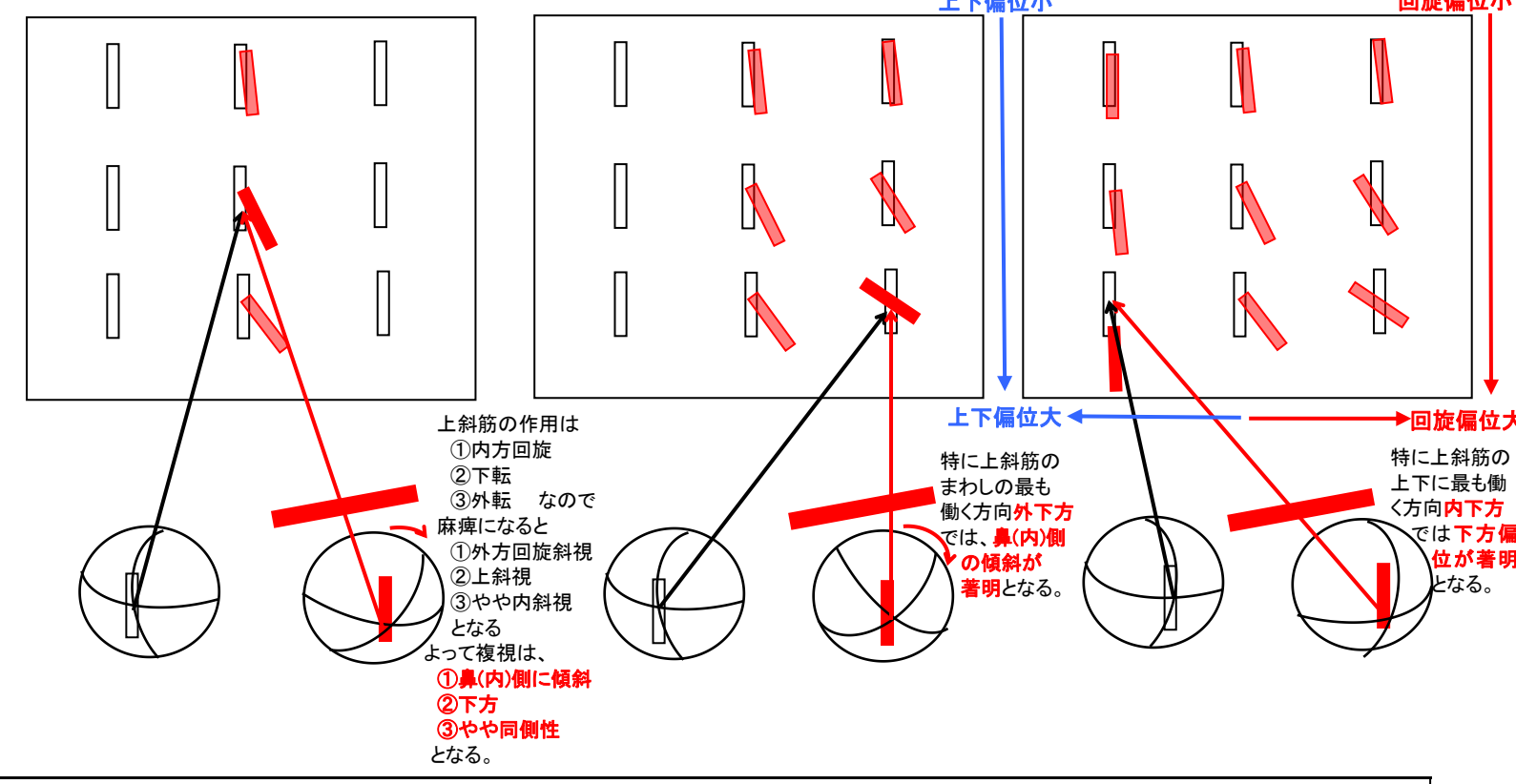
1つで白色
 又は
 赤色のみ

被検者に眼だけを動かすように指示し、順次計 9ヶ所を点滅させ白色縦棒を基準としての赤色縦棒の偏位や傾きを聞く
 ・左右どちらに見えるか？
 ・上下にずれているか？
 ・棒の幅や長さを基準としてどれ位ずれているか？

上下偏位が考えられる場合、縦棒を横棒に変えられる器械もある。

混合色でも赤色と勘違いする場合がありますので、色の濃さを比較すると良い。

例) 正常対応右眼上斜筋(滑車神経)麻痺 * 右眼に赤ガラス装用の場合



YES 9方向全て赤白混合色で定位置にあるか？

YES 複像間距離は同じか？

共同性斜視

麻痺性斜視

* 水平にずれる場合
 同側性複視: 内斜視(位)
 交叉性複視: 外斜視(位)
 * 上下にずれる場合
 複視と上下逆の斜視(位)
 * 傾かず斜めにずれる場合
 上下水平合併斜視(位)

例えば9方向全てこういう感じ。内下斜視(位)

NO 縦棒が上下に偏位し、傾きもあるか？

水平筋麻痺

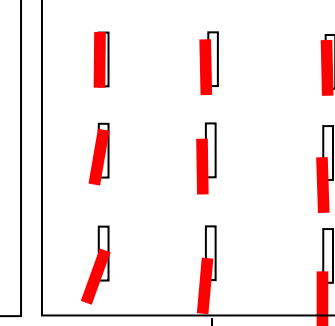
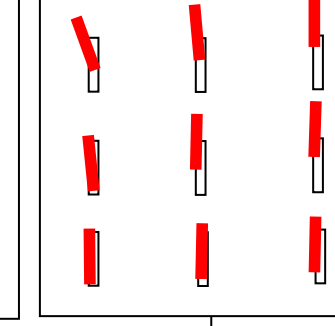
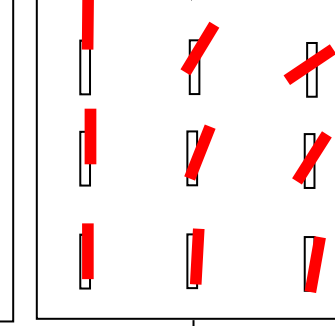
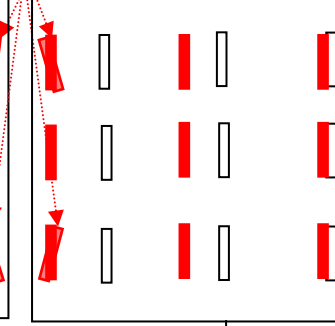
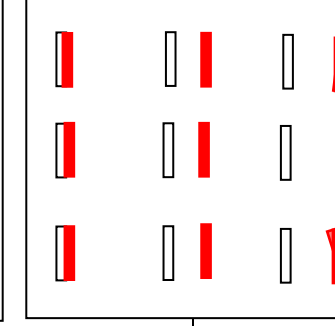
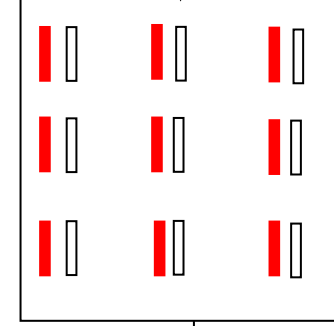
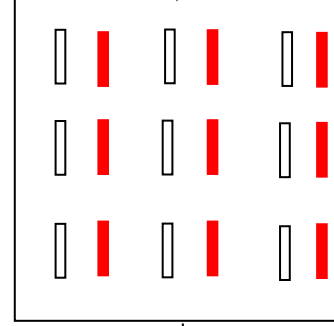
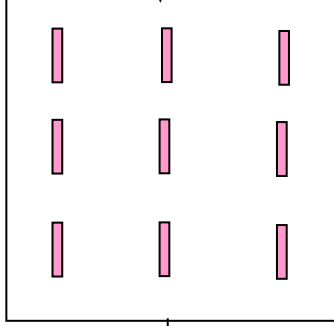
上下筋麻痺

同側性なら外転方向、交叉性なら内転方向に複像間距離が大きくなる作用筋の麻痺

上下の複像間距離が最も著しい位置が最大作用方向の上下筋の麻痺。(その反対方向で最も回旋作用が著しい)
 外方回旋偏位(鼻側へ傾斜): 上斜筋・上直筋麻痺
 内方回旋偏位(耳側へ傾斜): 下斜筋・下直筋麻痺

麻痺性の水平斜視の場合、麻痺方向では十分な水平運動が出来ず、上下方向で回旋が出る場合がある！出ない場合もある。

結果・記載例) * 右眼に赤ガラス装用の場合



正位(偏位なし) 眼球運動障害なし

右眼内斜視(位) 眼球運動障害なし

右眼外斜視(位) 眼球運動障害なし

右眼外直筋麻痺(外転神経麻痺)

右眼内直筋麻痺

右眼下斜筋麻痺

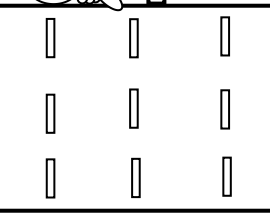
右眼上直筋麻痺

右眼下直筋麻痺

抑制又は対応欠如

判定不能

自分の結果を書いておこう！判定もね。

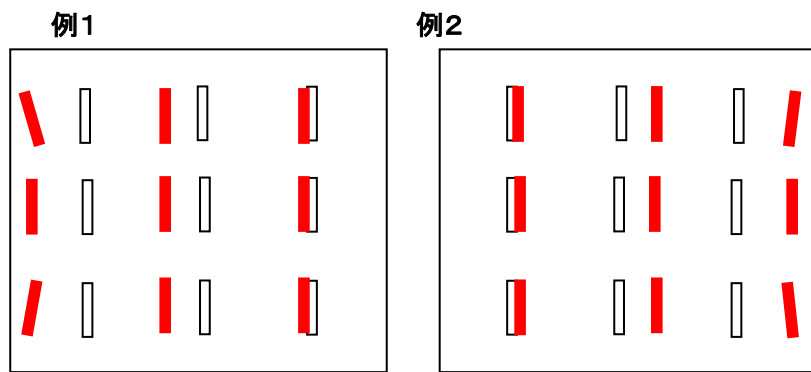


眼位は内斜視になるので、同側性に出るね！

眼位は外斜視になるので、交差性に出るね！

課題

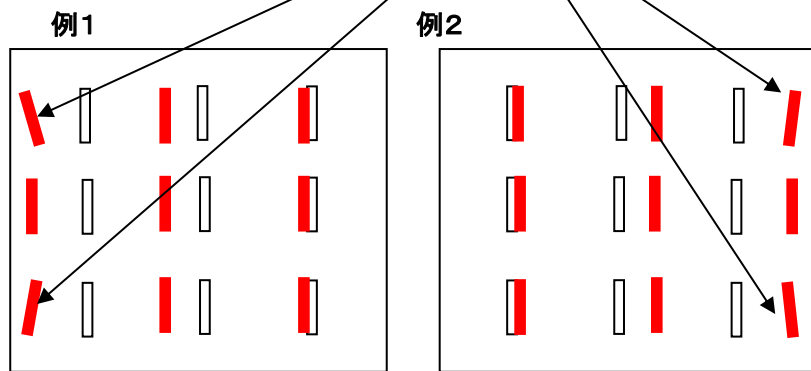
複像検査にて水平筋麻痺の場合、なぜ斜め上下方向にて回旋偏位も出現するのかを内方・外方回旋も考えて説明せよ。



課題

解答

複像検査にて水平筋麻痺の場合、なぜ斜め上下方向にて回旋偏位も出現するのかを内方・外方回旋も考えて説明せよ。



右眼に赤ガラスを装用したとすると、例1は右眼内直筋麻痺で、内転しきれず上下方向を見ることとなるので、内上転時に指令のゆく下斜筋に指令がゆくと、大きさに言えば第1眼位に近いまま上転したこととなるので外まわしも入ってしまう。また同様に内下転時に指令のゆく上斜筋に指令がゆくと、内まわしも入ってしまう。

右眼に赤ガラスを装用したとすると、例2は右眼外直筋麻痺で、外転しきれず上下方向を見ることとなるので、外上転時に指令のゆく上直筋に指令がゆくと、同様に内まわしも入ってしまう。また同様に外下転時に指令のゆく下直筋に指令がゆくと、外まわしも入ってしまう。